

英 両語で読む  
日本心理学史  
[第4回]

# アジア初のICPが東京で開かれる(1972)

サトウタツヤ

立命館大学教授／学校法人立命館・総合企画室長。  
今月はICP@横浜がよいよ開催されます。今回の横浜ICPは東アジア地域では3回目の開催となります。次の東アジア開催は韓国でしょうか。皆で応援したいですね！



第12回の国際心理学会議（ICP）（1940）は、ウィーンで行われる予定でしたが、ナチス・ドイツがオーストリアを併合したことで延期となりました。結局、次のICPは第二次世界大戦後にエジンバラで行われましたが（1948）、日本人の名前はありませんでした。

1972年、アジアで最初のICPが東京で行われ、アジアの心理学（者）を大いに勇気づけました。この頃から日本の心理学は単なる輸入から脱することができ、グローバル化する心理学に貢献できるようになったのです。

北京で第28回のICPが開催されてからわずか12年後、2016年に東アジアで3度目のICPが開催されます。心理学における東アジアの国々のプレゼンスが高まっているようです。

Although the 12th ICP was originally scheduled to be held at Vienna in 1940, it was postponed following the Nazi German occupation of Austria in 1938. Following the end of WWII, the congress met at Edinburgh on July 1948. Among the participants, no Japanese name was listed (Takasuna, 2016).

In 1972, ICP was held for the first time in Asia at Tokyo, Japan, which highly encouraged research in the discipline of psychology in Asia. Over the following years, Japanese psychology and psychologists gradually transformed themselves from being mere importers of foreign knowledge to become cocreators of the body of globalized knowledge on the subject.

A meager 12 years after the 28th ICP was held, at Beijing, China, ICP is held once again in East Asia in 2016. This is the third time that the congress is being held in East Asia (1972 and 2004 being the two preceding years); therefore, it seems that the presence of East Asia in the field of psychology is becoming significant.

## 文献

Takasuna, M. (2016) Japanese Participants at International Congress of Psychology Pre-WWII. *Japanese Psychological Research*, 58(S1), 129-137.



写真2 第20回国際心理学会議 組織委員会委員、専門委員、事務局員のメンバー。前列左より、池川郁子、中村多喜子、岩松洋子、中村素子、久家弘子、与儀明子、田中靖政。後列左より、山口なお子、山岡淳、印東太郎、相良守次、浅井邦二、東洋、田中良久（『日本心理学会75年史』より）



写真1 第20回大会組織委員長・相良守次



写真3 第20回国際心理学会議開会式（1972、東京プリンスホテル）における相良守次組織委員長の開会の辞（『日本心理学会75年史』より）